

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	公園維持管理事業				
担 当 課 係 名	都市整備 課		住宅公園 係	作成者	高橋貞二
総 合 計 画 で の け 位 置 づ け	施策の大綱	安心・安全で潤いのある生活環境のまち			総合計画の ページ
	基本計画	公園や緑地の整備			
	主要施策	都市公園の管理と利用促進			81
予 算 費 目	一般 会計	8 款 土木費	4 項 都市計画費	4 目 公園費	
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市都市公園条例・仙北市河川公園条例				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民並びに来訪者
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	市民の憩いの場、レクリエーションの場として、市民が快適で楽しく利用できる環境づくりに努める。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	施設の維持管理業務を実施する。維持管理業務の草刈り作業は業者へ、植木の冬囲いはシルバー人材センターへ委託している。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	維持管理実日数	目標	日	235	235	235	
			実績	日	235	235	235	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	市民1人あたりの公園面積	目標	m ²	8.88	8.88	8.88	
			実績	m ²	8.88	9.01	9.12	
			達成度	%	100.0%	101.5%	102.7%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				7,414	7,675	6,363	
	人 件 費 (B)		—		707	1,130	872	
	職 員 数		—		0.09	0.14	0.11	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				8,121	8,805	7,235	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				8,121	8,805	7,235
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		34,557	37,468	30,787
		市民1人当たりのコスト(円)		—		255	280	233

【事務事業の今までの成果】

憩いの場として、心地よく利用できる環境を提供している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	緑化については、地球温暖化の視点から推進が求められている。 県の「水と緑の森づくり税」を活用した施設整備の予定がある。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	草刈りだけでなく、樹木の下刈、枝打ちなども必要である。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	A 現状のまま継続（実施）	草刈り作業は委託しているが、古城山公園、花場山公園については樹木の管理が充分にできていない状況であり、C 2 判定と判断した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

古城山公園は「水と緑の森づくり税」を活用した施設整備を進める。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	維持管理経費の圧縮や利便性と安全な利用の確保に努めながら、地域の憩いの場として親し みを持っていただくことを目指して事業を継続すべきと考えます。

一次評価診断図

